

平成19年度 第4回平田地域協議会 会議記録（抜粋）

○日 時 平成19年10月 4日（木）午後6時30分～8時30分

○場 所 平田総合支所 大会議室

○出席委員 10名 1号委員 丸山賢治、齋藤孝雄、石川敏行、高橋絹子、菅原律子

2号委員 佐藤富雄、富樫文雄、佐藤良二

3号委員 佐藤達也、藤原幸雄

（※1号委員：公共的団体推薦、2号委員：識見委員、3号委員：公募委員）

○欠席委員 3名 1号委員 今井英夫、西田 克、3号委員 富樫美雪、

（1号委員 阿部時男、2号委員 小林隆逸より辞任届）

○職 員 平田総合支所長：佐藤富雄、地域振興課長：齋藤啓一、市民福祉課長：久松勝郎、
建設課長：鈴木良寿、教育振興室長：齋藤善和、産業課農林主査：酒井尚人、地
域振興課課長補佐：石川忠春、地域振興主査兼地域振興係長：佐藤良広

○傍 聴 者 2名

< 協議会次第 >

○市民憲章の唱和

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 平田総合支所長あいさつ

4. 会議録署名委員の選出

5. 協 議

（1）20年度地域づくり予算について

（2）地域の課題について

（3）コミュニティ振興組織について

（4）その他

6. その他

7. 閉 会

●開会に先立ち、欠席委員を報告。

●その後、全員で酒田市市民憲章を唱和し、開会する。

1. 開 会 … （進行を務める地域振興課長が開会する。）

2. 会長あいさつ

夜分の開催となりご苦勞をおかけした。先の第3回の協議会で予算関係について議論できなかったためあらためて開催させていただいた。

稲刈りも7～8割を終え秋の農作業も順調に進んでいる。私事だが、先日調整した米もすべて一等米、食味値も良く、収量的にも600kg程度であった。早速家族で新米を試食した。新米のおにぎりを囲みながら、昨今の世相を鑑みるとき家族で食事を楽しむことの大切さをあらためて実感した。

さて、本日は新年度予算について意見をいただくが、支所タウンセンター構想、コミ振に関してと同様、我々には市民レベル、住民レベルでの議論が求められており、私も肝に銘じているところだ。「支所が無くなるのか」など、諸会合でも色々な意見が出るが委員各位からは各団体での状況などもふまえて発言をいただきたい。先日、副市長等とグリーンツーリズム関係の会合で一緒になり意見交換したが、その際も我々に求められるのは市民レベル、行政を茶の間から語ることだと感じた。

お疲れのところ夜間の会議に参集いただき申し訳ないが、どうか建設的な意見をお願いしたい。

3. 平田総合支所長あいさつ

仕事でお疲れのところ、夜の会議にもかかわらずご出席をいただき感謝申し上げます。

稲刈りもほぼ終了したようだ。一部では高温障害もあると聞いているが、会長の紹介のとおりまさに実りの秋を迎えている。9月14日の第3回の協議会に引き続き、地域づくり予算等についてご意見をお願いしたい。

私から3点ばかり報告したい。1点目は、コミ振への市の支援策で、9月中に方針を決定する予定だったが、まだ最終決定に至っていない。ただ、金額等は示せる段階にないが施設の管理費、人件費支援、事業への補助などの基本的な考え方について、後ほど担当課から資料で説明させていただきたい。2点目は、診療所の医師募集を9月末まで行ったが、結果として応募者がいなかった。この結果を健康課において市長に報告し今後の対応を検討することになっている。誠に残念である。3点目は、当協議会の小林隆逸委員、阿部時男委員から辞任の申し出があり受理した。後任については残任期間となるが、早急に手続きをしていくのでご理解を願いたい。夜の会議ということでご苦勞をおかけするが活発な会議としていただきたい。

4. 会議録署名委員の選出 … (6番 高橋絹子委員を選出)

6. 協 議

○ 富樫会長

支所予算としての地域づくり予算と、地域課題をふまえた予算とは関連するので(1)(2)を一括して協議を行いたい。始めに事務局から資料の説明を願いたい。

(1) 20年度地域づくり予算について

(2) 地域の課題について

(地域振興課長より、(1)の事前配付資料と当日配布資料により今年度の「地域づくり予算」の事業執行状況、その課題、20年度に向けた担当課の考え方等を説明。また、(2)の地域課題に関連する資料として、特に合併協議で確認された新市建設計画の補足資料である主要事業の進捗状況を説明し、協議に移った。

○ 富樫会長

それでは、委員各位より質問、意見をいただきたい。

○ 藤原委員

地域づくり予算の資料の中に20年度の要求方針として、同額を要求予定となっているが、市の方針はどこでもマイナスシーリングだという声を聴く。同額要求ということはどういう考え方か。また、建設計画主要事業の4年目以降事業に田沢小学校の屋体、管理棟の改築があるが、補助金を受け建設した場合10年間は転用ができないということを知ってきたが統合の方針もある中でどういう対応になるのか。

もう一点、岐阜県海津市、旧平田町との交流についてだが、私自身も第9回に参加し、子供たちが違った地域を訪れ交流を通し、成長が育まれていくのを実感し大きな成果のある事業と認識している。当時、岐阜県側でも10回を節目に新たな次元で見直すという話があった。私も考え直すことは大事だと考える。この種の交流事業は、松山・八幡地域でも引き継がれているはずだし、旧酒田市でも実施され成果を上げている。市全体に合流して行く方法もあるかと考えるがいかがか。

○ 地域振興課長

地域づくり予算は合併後の18年度予算から措置され、19年度の場合14,103千円の予算となっている。内容は旧町からの継続事業で、特色のあるまた地域振興に資するソフト事業であり、これまでは枠外予算となっていた。3年目となる20年度予算からは、地域づくり予算全体の枠で吟味される枠内予算になる。委員の指摘のとおり市としては5%マイナスの方針となっているが、担当各課・室の要求額として理解いただきたい。今後、地域振興課で額の調整を行うこととなる。

- 教育振興室長

学校整備の際は、国の補助金を受けるため10年間使用が制限される。現在、酒田市全体の中で学校整備は調整されている。

岐阜県海津市との交流事業は、最近特に子供たちの体験交流事業は重視されており、今年の交流事業においても、随行の海津市の生涯学習課長と酒田市教育長、教育部長が会談し、これからも継続し進めたい旨意見の一致をみた。ただし、平田地域に限定するかは未定である。
- 藤原委員

田沢小学校の場合、20年度屋体を改築した場合、そこから10年制約されるということか。
- 教育振興室長

体育館でも改築から10年は制約される。ただし、現在酒田市としてその計画はない。
- 齋藤委員

中山間地域の振興、仁助新田地区の整備等について協議中という説明があったが、いつまで検討が続くのか。また、4年目以降の主要事業で旧町道、市道整備で平田地域で整備を予定している路線はどこか。
- 地域振興課長

現在、中山間地域振興のため分館主事、及び分館推薦の若手の方々によるワーキンググループで検討している。その内容をふまえ年度内にまとめ上げたい。その後、当協議会にも示し意見をいただきたい。
- 建設課長

市道整備として13路線ほどを過疎計画にも搭載し市の計画に反映している。(路線名の記載は略。)
- 佐藤(良)委員

コミセン周辺の整備、山谷地区以東の振興にはこれまでも努力してきているが、力を入れていく必要がある。その中で、地域の特色を生かした交流、移住も必要である。空き家対策も積極的に進める必要がある。
- 地域振興課長

空き家対策は個人の権利問題もあり行政として踏み込むのは難しく、民の力で解決策を考える必要もある。空き家問題は、酒田市として市街地でも数多く発生し全市的な問題として総合計画にも項目として上がっている。
- 佐藤(富)委員

山間地域も含め平田地域として、宅地造成事業を地の利を生かした施策として推進してほしいものだ。六ヶ村排水対策と絡むものだが、宅地が増えて排水対策が必要なのか、もともと条件的に発生しやすい状況なのか。地の利を生かした宅地開発が大切であるが、

六ヶ村排水対策がなされない限り宅地造成ができないのか。

○ 建設課長

平成18年度に部内で検討し、19年度は詳細設計をコンサルタントに委託中である。10月までにその成果が報告される予定である。排水路までの雨の到達時間は宅地と農地では異なり、現状では宅地化に伴い時間雨量30mm以上で危険な状況にある。

○ 地域振興課長

建設課長の回答のとおり、現在では限界に近い。酒田市の宅地開発の基本的考え方として、①市街地も含め市全域の未利用宅地が60haあり、今後の人口動態を見据えた宅地需要の充足が可能である。②合併前旧町においては過疎対策、にぎわい創出のため行政（開発公社含む）による宅地開発を行ってきたが、酒田市としては全体的見地で行政主導の開発は行わない。という方針になっている。砂越地内の開発を今後どうするか結論は出ていない。

○ 佐藤（良）委員

分館活動推進事業として10地域に地域づくり補助金が計80万円あるが、21年度からコミ振となった場合、コミ振補助金に上乗せするのか。

○ 地域振興課長

旧平田町だけの先駆的的制度であり、合併時の調整でも議論された事業である。現時点ではまだ方針ははっきりしていないが、コミ振立上げの際まで十分協議していきたい。

○ 丸山委員

資料の6祭り、イベントについて伺いたい。目ん玉夏祭りは盛況であったが、来年度、農協側は実施しないという声も聞く。商工会も合併するし、実施する主体がどうなっていくか不安である。青年交流として若者の出会いパーティも併せて開催しており方針を伺いたい。

○ 地域振興課長

地域振興祭り事業として、植木、目ん玉夏まつり、産業祭りは三本柱であり、山形県の目をアピールしてきている。このまま存続したいが、各団体の状況もあり内容など実行委員会で協議いただき、より魅力があるものを検討し計画していきたい。

○ 丸山委員

若手と言われる実行委員も忙しくなかなか集まらないという話も聞く。若い人が少なくなっている中で視点を変えて実施することも必要と考えている。花火の寄附金も減っているなどこれからの実施方法を検討していきたい。

○ 菅原副会長

ファームステイの成果として、農産物の販売交流が図られたとあるが具体的にはどのようなことか。

○ 地域振興課長

目んたま畑で、参加生徒の各家庭へのお土産販売を行っていることなどを上げたものである。

○ 石川委員

実行委員として補足すると、お土産パンフレットを作成し事前に米、野菜などをお土産として予約してもらい、ファームステイ後に自宅へ直接送付した。金額的な大きな成果というよりも、都市と農村、大きな視点で物産交流が図られたと受け止めている。

○ 佐藤（富）委員

関連して、課題に推進方法を再検討すると記載があり、事務局も苦労しているものと感じている。率直に状況はどうなのか。

○ 地域振興課長

間際までファームステイ受入れ家族の確保には苦労した。開催当初、平田地域のみで受入れ家庭を確保できたが、近年から松山、中平田、東平田等の方々からも協力をいただいている。20年度は事業を継続する方針だが、それ以降については、これから検討していく必要があると考えている。

○ 石川委員

農業体験事業が増えている。また赤ねぎについても行政の積極的な支援が実りメジャーになってきた。主要事業にも搭載されている園芸産地拡大支援、水田畑地化対策などこれからどう進めていく考えか。

○ 産業課農林主査

赤ねぎについては一定の成果が出ており、今後、部内では鳥海南麓のふきなどについて関係機関と協議中である。課長が欠席であり各事業の方針等、詳細については後ほど回答させていただきたい。

○ 富樫会長

部内で整理して、質問に応じていただきたい。

○ 佐藤（富）委員

合併以降、小学校が統合し山間地域の学校がひとつ無くなったが、子どもの学力の変化など市教委では課題となっていないか。

○ 教育振興室長

現在、私の所に情報は入っていない。入ったら連絡する。

○ 高橋委員

タウンセンターの図書センターは月曜日が休館日となっているが、小学校の代休日（運動会の翌日など）には開館してほしいと要望してきたが、その後の対応は。また、小学生バス無料券の活用の状況について伺いたい。あわせて、今後、中学校の代休日への対応や、山間地域の中学生へのバス無料券についても必要ではないかと考えるがいかか。

- 教育振興室長
小学校の代休日の図書センターの開館は、運動会などのある9月、10月に実施している。今後、中学生への対応については父兄とも協議していきたい。
- 藤原委員
開館されていることが広報されていない。防災無線でも流す方法も考えてほしい。
- 教育振興室長
今回の措置は、閲覧は可能だが、貸出はできないという部分的な対応でスタートしたものである。PTA関係者には周知したが、全地域への広報については今後検討していきたい。
- 富樫会長
地域づくり予算、地域課題についてはこの程度とし、次のコミュニティ振興組織について協議したいがいかがか。(一同意義なし)
担当課においては本日の意見をふまえ、予算への反映を願いたい。

(2) コミュニティ振興組織について

- 富樫会長
前回の各委員の意見が示され、課題も明らかになってきているが、まず事務局から本日提出の資料の説明を願いたい。

(地域振興課長より、前回の議論をふまえ課題整理した内容と、10月中を決定の目途としていた市としての支援補助金の方針について、現在未確定の段階だがその骨子を資料を基に説明。地域振興主査からは、B及びCパターンにおける地域内の関係団体とコミ振の関係について補足説明し、その後、意見交換に入った。)

- 富樫会長
協議会としてはこれまで議論を重ね、旧酒田市のコミ振の状況を視察も行ってきた。補助ありきの組織づくりではないが、市の補助制度が確定していないということで議論しにくい面はあるが、今日は、前回からまた一歩進んで組織としてのおおよそのイメージを深めて議論を進めていきたい。
- 佐藤(富)委員
現在、分館では規模の大小はあるがそれぞれ予算決算は完結している。コミ振がひとつになって分室を置く場合、それぞれ分室で独自の活動はできるのか。また、小さくても分室として完結した予算決算を行えるのか。

- 地域振興課長

ひとつになれば、コミ振としての全体事業と分室事業の2つになるわけだが、事業費の1/2補助はコミ振全体に係るものへの支援となり、分室事業への支援は難しいものと考えている。分室に予算補助が無ければ、現在の事業の継続などは厳しくなるものとする。予算としてはコミ振に一本化され、支部としての完結した予算は考えにくい。
- 佐藤（富）委員

分室として現分館の事業を残して、コミ振全体としても事業を進めるとなると負担が大きい。分室行事を集約するなり身軽にする必要がある。
- 富樫会長

平田地域でのコミ振の地域のくくり方などを定めて、その後、必要な活動、予算づくりをすることになる。平田地域としてのあり方も重要だが、酒田市全体を視野に入れ明確な議論をしていくことが求められる。当協議会としては事務局、支所とともにさらに課題を整理していきたいが、事務局ではどのように考えているか。
- 地域振興課長

本日提示した資料はコミ振への酒田市としての支援制度の骨子である。金額は確定していないが、委員には考え方を理解いただきたい。今後、パターンBとCの選択、その決定に役立つ資料をつくるが、もう少し時間をいただきたい。
- 富樫会長

市の支援方針が定まったことで、今後どういうふうに通振を形づくるかを議論する必要がある。最終的に方向付けをすべき時期はいつ頃か。
- 地域振興課長

スケジュールとして申し上げてきたように、年内には平田地域での組織化の方針を定めたい。その後、年度末に向け各組織、団体において総会で話題にしていきたい。
- 丸山委員

Cパターン平田ひとつにして事務員を複数名とすることは可能か。
- 地域振興課長

市の支援は1コミ振1名という基本的な考えである。Cでは平田全域を網羅し、39集落とのやりとりを職員1名で行うことは無理で、特殊性ということで複数名の支援を求めるべきという意見も当協議会の場でも出されている。Cの場合は、この問題がつきまとうと認識している。
- 佐藤（富）委員

区長会や福祉関係などの組織では、事務局を行政職員が担っている。Cの場合ではコミ振の中にそれら組織が入ることになり、行政がコミ振内の組織運営に関わることになる。職員の立場を越えてコミ振内組織に入ることは可能か聞きたい。
- 地域振興課長

コミ振内部の団体事務局に行政が関与することはできない。Cの場合心配されるとおりと認識している。各団体、コミ振においては、自力で業務を行うこととなる。

○ 佐藤（富）委員

消防、環境衛生など一人で事務をこなすことは不可能であろう。何らかの行政の関与は必要だと思う。

○ 佐藤（良）委員

旧酒田市の中平田コミ振では、500戸、約1千万円の予算で地元で事務局職員を雇用し運営している。コミ振事務局が地域内の自治会長会、体育振興会などをまとめている。市の補助金は受けているが、あくまでも地元主体で、市役所に何とかしてくれというものではない。また、中平田では地域で保育園を運営し地域民で支え赤字も出さずに頑張っている。単純に考えると、平田ひとつなら2000戸で4千万円の予算となる。旧平田町では役場が密接に関わり住民としては恵まれてきたが、これからは地域が主体となって組織、団体を運営していく必要がある。

○ 佐藤（富）委員

我々も考え方を切り替える必要がある。

○ 佐藤（良）委員

変化にはある程度時間も必要である。

○ 富樫会長

今日は補助金という金の流れ、その骨格が明らかになり、組織のあり方もだんだん見えてきたようだ。隣の東平田地域の例なども各委員研修してきた訳だが、市民にとって一番良い形を真剣に議論していく必要がある。各委員、組織、団体、自治会に持ち帰ってさらに市民の声をこの場に持ち寄っていただきたい。この会では公開し議論を尽くしていきたい。コミ振に関する本日の協議はここまでとする。（一同意義なし。）

○ 地域振興課長

コミ振に関しては本日の協議会での意見や市の支援策をふまえ、支所としてもさらに内容を詰めた後に、当協議会をはじめ市民への情報提供を行うので、よろしくお願いいたします。

(4) その他

○ 富樫会長

その他で何かありませんか。

○ 佐藤（達）委員

支所長の話にあった診療所の医師の対応は今後どのようになるのか。

○ 市民福祉課長

公募の結果、状況を副市長、市長に報告し指示を仰ぐこととなる。

7. その他

(教育振興室より平田体育館改修工事の見通しについて事務連絡等)

8. 閉 会

○ 菅原副会長

本日の協議会は、初めて夜に開催したが活発なご意見をいただき感謝申し上げます。都合により欠席された委員もおられたが、2名の委員の欠員補充については、支所において至急お願いしたい。傍聴の皆様も長時間ご苦勞様でした。

(20:30閉会)

(注) コミュニティ振興組織=コミ振 として文中使用

コミ振結成パターンで、Cは平田ひとつ、Bは2～4程度の複数の組織化を行うもの

会議録署名委員